

## 目次

■ <b>最新のロシア地域総生産</b> .....	1
■ <b>統計速報</b> .....	8
2023年1～5月のロシアのブランド別乗用車販売台数／8	
2023年1～4月の日本の対ロシア・NIS諸国輸出入通関実績(訂正)／9	
■ <b>エトセトラ</b> .....	10
アルメニア・ビジネスフォーラムのご案内／10	
■ <b>トピックス</b> .....	10
任天堂、ロシア向けサービスを縮小／10	
鉄骨二次部材加工のメタルプロダクツがモルドバ企業と業務提携／10	
ウクライナ政府関係者が日本のリサイクル施設を見学／10	

## 最新のロシア地域総生産

### はじめに

ロシア連邦国家統計局は先日、2021年のロシアの地域総生産の統計を発表した。地域総生産は国内総生産(GDP)を地域別(連邦構成主体レベル)にブレイクダウンしたもののだが、GDPよりも発表が遅いので、このほどようやく2021年の数字が発表されたというわけである。そこで今回の速報では、この最新データを表にまとめてご紹介する。

表1は、2021年のロシア各地域の地域総生産と住民1人当たりの地域総生産を示している。経済規模を示す地域総生産では、1位モスクワ市、2位サンクトペテルブルグ市、3位モスクワ州、6位クラスノヤルスク地方、7位クラスノダル地方、8位タタルスタン共和国、9位スヴェルドロフスク州、10位ロストフ州と人口の多い地域が上位に名を連ねる。また、4位ハンティ・マンシ自治管区と5位ヤマロ・ネネツ自治管区の二大資源採掘地域の経済規模も大きい。それに対し、1人当たりの地域総生産ランキングでは、1位ネネツ自治管区、2位ヤマロ・ネネツ自治管区、3位ハンティ・マンシ自治管区、4位チュクチ自治管区、5位サハリン州と、資源に恵まれ人口が希薄な地域が上位を占める。

表2は、地域総生産の実質増減率を見たものであり、つまりは各地域の経済成長率である。2021年はコロナ禍が落ち着き、経済全体が回復基調であったため、多くの地域でプラス成長となった。表3は経済活動別(産業別)総生産の割合を示したものであり、各地域の経済の特徴をみることができる。原典では、経済活動は20ほどに区分されているが、表3ではそれを整理して12項目で示した。

なお、ロシアによるウクライナ領クリミアの併合は国際的には承認されていないが、以下の表では南連邦管区の枠内でクリミア共和国およびセヴァストポリ市のデータも参考値として示すことにする。